

石積みの門前町 坂本

J R湖西線・比叡山坂本駅から湖西道路の高架下をくぐり山手に歩きます。

石の鳥居を通り抜けてしばらく行くと右手に公人屋敷があります。江戸時代、延暦寺の僧侶でありながら妻帯と名字帯刀を認められた「公人（くにん）」と呼ばれる人達が住んでいた住居の一つで、代々「公人」を務めた、この旧岡本家のみが公人屋敷の旧状をとどめています。

この先左手に京阪電車・坂本駅、駅前に日本の茶の発祥地といわれる日吉茶園があります。その間、緩い上り坂で約 10 分位です。

このあたりから石積みの町らしい景色になります。すぐ右手に比叡山の開祖・伝教大師最澄の生誕地とされる生源寺があり、境内には産湯の井戸や、信長の焼き討ちの際に村人があまりにも強くついたため釣鐘にひびがはいる、不思議な音色になったといわれる「生源寺の破れ（われ）鐘」があります（当時のものは J R比叡山坂本駅前・石積の郷公園に）。

二つ目の石の鳥居をくぐると、日吉の馬場と呼ばれる日吉大社の参道で、あ の う し ゅ う 両側に穴太衆積み石垣の里坊が並びます。この里坊というのは山上の山坊に対するよび方で、江戸時代、山上で長年厳しい修行をつんだ僧が晩年に麓に住居を構え、老後を悠々自適に生活することが許されていました。最盛期には 90 坊ほどあったといわれており、現在では 50 坊ほどが残っています。

里坊庭園の共通した特徴は、庭園の周りを囲う穴太衆積みの石垣の美しさを活かしたり、石垣を土留めにして土を盛り築山にしたりしてうまく利用し、庭園の石は比叡山から出る豊富な山石や川石が、石組みなどの庭石に用いられている事です。

また比叡山から流れ出る大宮川・藤の木川の恵まれた水と、山麓の地形から池や流れが造りやすかったといわれ、大きく三つのタイプに分かれます。池を中心とする庭は滋賀院門跡や芙蓉園（旧白毫院）など、傾斜地を巧みに利用した流れの庭は旧竹林院や下流の律院などで、枯山水や平庭で琵琶湖の眺めの良い庭の慈光院などがあります。

坂本の石積みの特徴である「穴太衆積み」は坂本の南、穴太地区一帯に古来より居住し、延暦寺の土木営繕的な御用を勤めていた穴太衆の技術によるといわれ、加工しない自然のままの石をそのまま積む「野面（のづら）積み」がほとんどですが、この素晴らしい技術は現在一社のみを引き継がれています。滋賀院の石垣は規模も大きく堂々たる構えです。

ようやく朱色の鳥居の日吉大社です。全国 3800 余りの山王さんの総本宮で、国宝の東西両本宮や 17 の重要文化財の建物が約 40 万㎡の木々の中に建っており、秋は 2500 本のもみじに映え見事です。湖国三大祭りの山王祭は 4 月 12～15 日で勇壮な神輿祭りです。

鳥居の左手の本坂を登れば天台宗総本山の比叡山延暦寺東塔へ約 1 時間半、坂本ケーブルを利用すると 11 分で山上へ行けます。

日吉大社東本宮右横の「山の辺の道」を歩くと、天台真盛宗総本山の西教寺に着きます。ここは聖徳太子の創建で、天智天皇から寺号を賜ったとされ、400 余りの末寺を持つ総本山です。明智光秀が檀家となり復興に力を注いだので、明智一族の墓があります。

歩けばそこここに歴史的なものがいっぱい楽しめる町です。